



Shikoku
Cancer Center News
No.95

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター

四国がんセンター ニュース



2026
夏の号

基本理念 患者さんの立場にたち人格を尊重し、科学と信頼に基づいた最良のがん医療を提供します。



(西予市宇和町 撮影 俊野 健治)

ご挨拶

4月に着任いたしました事務部長の頼本でございます。四国がんセンターでの勤務は、入職時も含めると今回で3回目となり、まるでホームに戻ってきたかのように感じております。これまでの経験を生かしながら、当センターの持つポテンシャルを最大限に引き出せるよう精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、当院は1979年に「四国がんセンター」へと名称変更して以来、今年で48年目を迎えました。愛媛県における死因の2割以上を悪性新生物（がん）が占めている現状を踏まえると、がん専門病院としての役割は現在においても非常に大きいものと考えております。がん診療の均てん化が進み、多くの医療機関で診療が行われるようになった一方で、医師や看護師をはじめとする医療従事者の高い専門性に基づいた高度ながん医療を提供できる点は、当院ならではの大きな強みであり、存在価値であると言えます。

この専門性を十分に生かすためには、がん検診による早期発見が極めて重要です。しかしながら、愛媛県におけるがん検診

の受診率は42～45%と、全国平均（約49%）を下回っている状況にあります。愛媛県がん診療連携拠点病院である当院としては、周辺自治体や関係機関と連携し、検診率の向上に寄与できるよう、事務部門としても積極的に支援してまいりたいと考えております。

また、地域におけるがん診療を安定的に継続していくためには、病院経営基盤の強化も重要な課題です。今年度の診療報酬改定では高度急性期病院の救急体制が高く評価されましたが、専門病院として当院が担う手術や薬物療法における高度な技術と専門性も、決して引けを取るものではありません。これらの強みが十分に発揮できるよう、診療、研究部門と共に持続可能な運営の実現にも取り組んでまいります。

今後とも、地域の皆様および関係機関の皆様のご理解とご協力を賜りながら、がん医療のさらなる質の向上と発展に努めてまいりますので、引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



(事務部長 頼本 真一)



がん治療

最前線

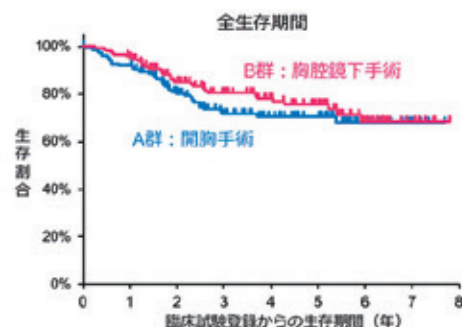
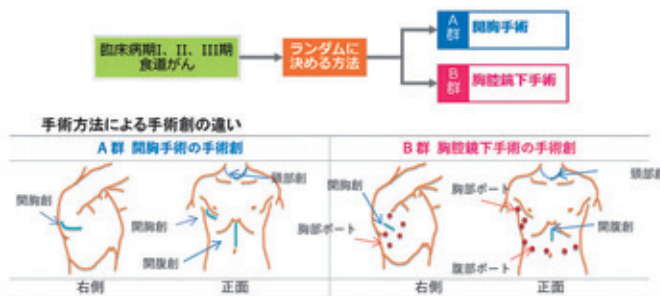
食道がんの低侵襲手術について

近年さまざまな領域の手術が低侵襲手術といって、小さな創から内視鏡を挿入し、映像をモニターで見ながら操作を行う手術でできるようになってきています。この手術は術後の創の痛みが少ないというメリットに加えて内視鏡で拡大視ができることで、より精細な手術が可能になるというメリットもあります。

食道がんはこの低侵襲手術の恩恵が大きい手術と言えます。一般的に食道がんの手術では胸部操作は右胸腔からのアプローチで行いますが、食道は縦隔という深い場所に位置しているため、従来の開胸手術では肋骨を切って大きく開胸して行われるのが一般的でした。術後は創痛も強く、痰の咯出が十分にできずに肺炎などの合併症が発生することもありました。また、開胸しても食道は奥深い位置にあるため、術者以外はほとんど術野が見えない状態で手術が進められることも珍しくありませんでした。胸腔鏡での手術では、小さな創を5, 6か所開けることで手術が可能となり、術者だけでなく助手もモニターを見ることで術野を共有することができます。

近年の食道がんの手術は低侵襲手術として胸腔鏡やロボット支援下で行われる手術が増加しており、全国の医療情報を収集しているNCDデータによると2021年の食道がん手術の約75%が低侵襲手術で行われていました。

低侵襲手術の有用性を評価する目的で開胸手術と胸腔鏡手術を比較する臨床試験（JCOG1409）が行われ、当院もこの試験に参加しました。開胸手術に対して胸腔鏡手術の全生存期間における非劣性が証明され（図）、胸腔鏡手術は食道がん手術における標準治療と位置づけられています。また、胸腔鏡手術では術中出血量が有意に少なく、縫合不全や肺炎といった合併症では有意差がなく、術後の呼吸機能の低下や疼痛は有意に低いという結果でした。当院でも現在はほとんどの食道がん手術を低侵襲手術で行っています。また、こういった臨床試験では術者規準が設けられて手術の質が担保されていることが一般的ですが、当院では日常診療においても上記の臨床試験の規準を満たした術者が担当して食道がん手術を行っています。



JCOG1409レイサマリーより引用



(消化器外科医長 柿下 大一)



治験 CHIKEN CORNER

ちけん

「当院では治験を実施しています」

●現在参加者募集中の治験等情報

- 固形癌 …………… 8件
- 胃癌 …………… 2件
- 食道癌 …………… 3件
- 大腸癌 …………… 4件
- 胆道癌 …………… 2件

- 消化管間質腫瘍 …… 1件
- 消化器神経内分泌癌 … 1件
- 肺癌 …………… 21件
- 前立腺癌 …………… 5件
- 膀胱がん …………… 1件

- 尿路上皮癌 …………… 2件
- 腎細胞癌 …………… 1件
- リンパ腫 …………… 3件
- 卵巣癌 …………… 3件
- 子宮体癌 …………… 3件

- 子宮頸癌 …………… 1件
- 乳癌 …………… 10件
- 頭頸部がん …………… 1件

(令和8年6月1日現在)

こちらは、治験・臨床試験支援室です。このコーナーでは、ただ今、参加者募集中の治験等の情報を提供しています。なお、当院HPにて、詳細情報を公開中です。



https://shikoku-cc.hosp.go.jp/rinsyo/trial/clinical_trial_during_the_experiment/

下記の件数は企業治験、医師主導治験、製造販売後臨床試験の「現在参加者募集中の治験等情報」です。





呼吸器内科の診療について

当院の呼吸器内科では、肺がん・悪性胸膜中皮腫・胸腺がんなど、胸にできるがんの治療（薬物療法）を中心に行っています。また、健診などで「胸に影がある」と指摘された方や、咳が長引く、血の混じった痰が出るといった症状が続いている方など、ご心配や気になる症状のある方にも対応しています。患者さんお一人おひとりに寄り添いながら、丁寧に診療いたします。

大きく変わりつつある肺がん薬物療法

1. 非小細胞肺がん

これまで非小細胞肺がんの薬物療法は、抗がん剤を中心とした比較的共通した治療が行われてきました。しかし近年、医学の進歩により、がんの発生や増殖に関わる遺伝子の変化（ドライバー遺伝子）を標的とした「分子標的薬」が開発され、治療は大きく進歩しています。現在では、EGFR、ALK、ROS1など、9種類の遺伝子変化に対応した治療薬が登場し、患者さんそれぞれのがんの特徴に応じた「個別化医療」が可能となっています。これにより、より高い治療効果が期待できるとともに、副作用をできるだけ抑えた治療が行えるようになり、これまでよりも良好な経過が期待できるようになっています。

2. 小細胞肺がん

これまで小細胞肺がんの2次治療は、長年にわたり大きな進歩がみられませんでした。しかし近年、2重特異性抗体と呼ば

れる新しいタイプの治療薬が導入され、治療成績は大きく向上しています。これまで治療が難しかった状況においても、新たな治療の選択肢が広がり、生存期間の延長が期待されるようになっていきます。

治験・臨床研究などの治療開発について

このように、肺がんの治療法は日々進歩しています。新しいお薬の開発も進み、治療は年々大きく変化しています。こうした中で、当科は国内でも有数の治験・臨床研究を実施している施設の1つであり、豊富な治療開発の経験を基に、常に最新の情報の収集に努めています。患者さんそれぞれにとって、最先端で最適な治療をご提供できるよう、日々努めています。

さいごに

当科では、毎日外来診療を行っていますので、胸にできたがんや、呼吸器系の症状でお困りの方は、どうぞお気軽にいつでもご相談ください。



（臨床研究推進部長 梅村 茂樹）



エキスパートナース・メディカルスタッフ

EXPERT NURSE・MEDICAL STAFF

Part.71

その一枚もここから生まれる
ー院内印刷工場の舞台裏ー

私の所属する「地域クリニカルパス開発研修室」は、新棟3階にあります。クリニカルパスの管理を行う部署ですが、実は院内では「印刷工場」ともいえる役割を担っています。その中心となるのが、2台の高性能な印刷機器です。

1台目は、1分間に140枚（1秒間に約2.3枚）という世界最速クラスの印刷スピードを誇る大型機器です。当室では、各部署から依頼された患者さん用のクリニカルパスを次々と印刷し、毎日フル稼働しています。特に得意なのが冊子印刷です。この機器の導入前は、両面印刷後に担当者が手作業で2カ所をホッチキス留めし、さらに製本テープを貼って仕上げていました。現在では冊子印刷が自動化され、作業効率が大きく向上しました。

また、折り・綴じ・パンチ機能も備えており、研修資料の作成にも活躍しています。クリニカルパスだけでなく、患者さんに配布する包括同意書やパンフレットなど、さまざまな印刷物の作成を支えています。

もう1台は、主にポスター印刷で活躍する機器です。

布にも紙にも印刷でき、多彩なサイズのロール紙に対応しています。特に学会発表用ポスターの印刷を得意としており、学会シーズンになると院内各部署から多くの依頼が寄せられます。また、講演会や院内イベントで使用するポスターや懸垂幕の作成にも力を発揮しています。

あなたが四国がんセンターで手にされた冊子やパンフレットも、この「印刷工場」から生まれているかもしれません。目に見えにくいところから、これからも医療を支え続けていきます。

（地域クリニカルパス開発研修室 砂野 由紀）



バスブリ1号 超速はやわぞ職人



バスブリ2号 大判ポスター職人

がん哲学外来



暖だんイメージキャラクター
「だんだんちゃん」

『哲学』というと大学で行われる難しい学問を意識するかもしれませんが、学歴や身分に関係なく、『人があることについて真剣に深く考えること』が哲学の本来の定義だそうです。ソクラテスも老子も大学の教授ではないし、一冊の本も書いていませんよね。人は、自分自身や身近な人ががんにかかったときに初めて死というものを意識し、それと同時に、自分がこれまでいかに生きてきたか、これからどう生きるべきか、死ぬまでに何をなすべきかを真剣に考えるようになることも多いような気がします。一方、実際の医療現場では目の前の治療に追われ、哲学的な問いに向き合う余地がありません。そういった医療現場と患者の間にある「隙間」を埋めるべく、「がん哲学外来」が生まれました。がん患者が、垣根を越えた様々な方々との対話により、「病気であっても、病人ではない」と感じられるように、私たちは寄り添っていきたくと思っています。

2026年6月、紫陽花が美しく咲く季節に、「がん哲学外来 坂の上の雲～暖だんカフェ～」が開催されました。進行は病理科医長の寺本先生。相談支援センター相談員、臨床仏教師が輪の中に入りました。臨床仏教師とは、布教や収益を目的とせず、生まれてから亡くなるまで種々の苦悩に向き合い、傾聴などの活動を通じて人々に寄り添う仏教者です。今回は11名の参加者の方々と医療者が語り合いを楽しみました。中には昨年も参加して下さったリピーターも。患者さんやご家族、医療者など様々な立場の方が参加され、それぞれが日ごろ感じている悩みや思いを言葉にし、互いの話に耳を傾けながら、ゆっくりと語り合うひと時となりました。時には笑い声が響き、時には静かに考える時間もありました。参加者からは「参加者の生の声をきき励まされた」「哲学っていうと難しいイメージだったけど楽しめました」との声が聞かれました。最後に臨床仏教師さんより今年の干支『馬』にちなんだことわざと、自分も大事だが周りの人も大事という意味の「恭敬」など4つの言葉についてのお話がありました。みなさん頷きながら耳を傾け、人と人が信じあうことについて考える時間となりました。

今年度、がん哲学外来は2回の開催を予定しており、2回目は11月に開催予定です。詳しい日程が決まり次第、暖だんのホームページやSNS（Instagram・facebook）にてお知らせいたしますので、ぜひ、ご確認いただきお気軽に参加していただけますと幸いです。

その他にも暖だんでは、1年を通してたくさんのセミナー・イベント・サロンを開催しますので、暖だんのホームページやSNS（Instagram・facebook）、外来に掲示しておりますチラシをご確認ください。本館2階エレベーター横の入退院サポート室前にあります配架ラックススペースには持ち帰り可能なチラシを置いておりますので是非ご利用ください。スタッフ一同皆さんのご来館をお待ちしております。

（患者・家族総合支援室 暖だん看護師 山崎 綾乃）

がん哲学外来

がん哲学外来は、その人らしい生き方の探求を目指し、垣根を越えた対話の場として全国に広がっています。一般的な外来診療とは異なります。

坂の上の雲

～暖だんカフェ～

あなたの想いを大切に扱うサロンです。病気の悩みや不安はもちろん、日々の何気ない生活のこと、ふと感じた人生への考えなどを
医師・看護師・臨床仏教師と一緒にゆったりお話ししてみませんか？

日時：2026年 6月 9日（火）

14時00分～15時00分



場所：四国がんセンター

患者・家族総合支援センター 暖だん 憩いのひろば

対象：患者・家族（参加希望のある方なたても）

参加費無料・申し込み不要

お気軽に
ご参加ください



※感染予防対策のため、
ティサービスは中止しています。
予めご了承ください。

主催・問い合わせ：四国がんセンター 患者・家族総合支援室 暖だん TEL:089-999-1209
後援：一般社団法人がん哲学外来



☑ がんセンターだより

地域医療連携交流会

地域医療の連携強化を目的として、令和8年7月25日(土)、当院主催で地域医療連携交流会を開催いたしました。

本交流会は、近隣の医療機関との相互理解を深め、円滑な診療連携の推進を図ることを目的として実施しているもので、今回で第10回目の開催となります。これまで継続的に実施してきた取り組みであり、地域に根差したがん医療提供体制の構築に寄与してきたものと考えています。節目となる10回目の開催として、改めて本交流会の意義を見直す機会ともなりました。

当日は「連絡会」と「交流会」の二部構成で実施しました。第1部の連絡会では、当院の各診療科の診療体制や特徴、近年の取り組み等について紹介を行い、参加された医療機関の皆様当院の機能や役割について理解を深めていただきました。各診療科の専門性や診療の流れについて共有することで、紹介・逆紹介を含めた日常の診療連携がより円滑に行われることが期待されます。

また、当院の受入体制や対応可能な医療内容について知っていただく機会としても有意義な場となりました。

続く第2部の交流会では、参加者同士が落ち着いた雰囲気の中で情報交換を行い、日頃の診療における連携の状況や課題について意見が交わされました。形式にとらわれない交流の場とすることで、各施設の実情や日常業務における工夫などについて率直な情報共有が行われ、相互理解を



深める機会となりました。普段は限られた連絡手段にとどまりがちな関係において、直接顔を合わせて話すことで得られる気づきや安心感の重要性についても改めて認識される場となりました。

本交流会への参加者は、前回と比較して増加しており、継続的な開催を通じて地域の医療機関の関心が一定程度維持されていることがうかがえます。参加者同士の距離が近く、実務に即した情報共有や意見交換が行いやすい環境となっています。こうした継続的な取り組みの積み重ねが、日常診療における円滑な連携や緊急時における円滑な対応などの基盤形成につながるものと考えております。

地域医療は各医療機関の連携によって支えられており、顔の見える関係の構築が重要です。今後も本交流会を継続的に開催し、地域の医療機関との連携強化を図るとともに、

地域のがん患者さんにとって安心で質の高い医療提供体制の充実に努めてまいりたいと思いますので、今後とも当院の地域医療連携活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(専門職 元原 正勝)



治療中の働き方に関する相談を実施しています!

～就職・就労相談状況のご報告～ 平成29年4月～令和8年5月

《新しく仕事を探している方のための就職相談》

相談延べ人数 982人 就職延べ件数 155件

《仕事を続けたい方のための就労相談》

相談延べ件数 128件

相談者の声

「病院で仕事の相談ができと思わなかった」
「話ができ、気持ちが楽になった」
「病気になった私でも、できる事があると思えた」

治療と仕事の両立支援



四国がんセンターは、がん患者さんの“働きたい!”をサポートしています。お気軽に、スタッフまでお声掛けください。

ちりょうさ

厚生労働省『治療と仕事の両立支援』キャラクター

【お問い合わせ】がん相談支援センター TEL:089-999-1114

医者のつづき リレーエッセイ



第三十四回 鯨が鰯の飲み過ぎを心配する噺

古代メソポタミアの壁画によると、当時ビールは健康薬品として飲まれていた。それに対し、タバコは体に悪い。常識だ。タバコを吸っている人は嫌なにおいがするし、老けやすい。ただ、具体的な危険の大きさを『その健康被害は日本で年間死者三万人！』（←これはマスコミのキャッチコピーであって疫学者の言い方ではない）と数字で示すには統計学的な解析が必要だった。政策上重要な疫学研究で、飲食店での喫煙禁止の根拠にもなった。吸わない人はうまい酒が飲めるようになった。

先日、米子で日本がん登録協議会の学術集会があったので、しおかぜとやくもを乗り継いで行ってきた。（しおかぜとやくもを乗り継ぐ健康被害については第17回参照のこと）

座長をした実務者研修会はうまくいったのだが、その後の理事会の飲み会は暗い雰囲気になった。

『少量でもお酒を飲むと健康被害を起こすということに評価が定まった。国立がん情報センターのHPも、節酒ではなく、禁酒が推奨と先週書き換えられた……orz』と口々に嘆いている。実は数年前に権威のある医学雑誌に、少量飲酒（一日ビール500cc、日本酒一合程度まで）は飲んでも健康に害がないという定説を覆して、一滴でも飲むと害があるという論文が出ていた。国はそれを採用したいようだ。

がん登録の学会なので参加者はほとんどが疫学の先生だ。嘆いている人の中には禁煙運動で活躍した人たちもいる。疫学の人たちは疫学研究の成果や、世界がん登録協議会の親団

体である国際がん研究機関の決定に従順だ。だが私は違う。目に見えないものは信じない。

ウィスキーをストレートで飲んで咽頭癌になるという話ならともかく、ビールで乳癌になるとかは信じられない。

『でも、飲酒すると乳癌の罹患が増えるというのは確かです……』
いや、いつもは死亡率まで検討しないと信用しないじゃないですか！

実は少量飲酒でも体に悪いという話の根拠となる論文は評判が悪く、結論も何度が修正されている。現実として意味のないわずかなリスクの差を大量の標本数で有意に見せることは統計の嘘と呼ばれている。少量飲酒が現実的なリスクかどうかは議論の余地がある。

それに、ビール500ccも飲む人が毎日それだけで終われるわけがない。私の知る酒飲み達は、1杯飲んだらまだ飲んでないと言い、3杯飲めば1杯飲んだと言い、10杯飲んだら憶えてない。私は昨日嫁さんに分けてもらった200ccしか飲まなかったが……少量飲酒者なんて妖精と一緒に、妖精に対する疫学調査なんて私は信じない。

疫学の先生なんかにだまされないぞ
『じゃ、信じてないんですか？』

いや、私たちくらい酒飲んだら体に悪いに決まってるでしょ！？

……翌日も学会があるので2次会に行ったあと、コンビニで缶ビール2本と、お茶を買って素直に宿に帰った。



（四国がんセンター・がん予防疫学研究部長 寺本 典弘）



四国がんセンターでは例年、鮎の解禁日である6月1日の昼食に選択食で『鮎の塩焼き』を提供していました。ただ、年を追うごとにサイズが小さくなっていくため、解禁日の提供にこだわらず、ある程度のサイズを確保できる頃に提供を行う運用に今年度より変更しました。また、当院の周りをぐるっと囲む『伊予の細道』にある梅の木になった梅を梅シロップに加工し、毎年梅ゼリーとして提供しておりましたが、今年度は1本の木に実が1～2ヶといった状況で提供は難しくなりました。さらには、給食で提供し続けていた『種なし梅

干し』が用意できないとの一報が入り（調べたところ有名な産地である和歌山は3年連続不作のようで加工業にも影響が出ているようです）、梅干しの提供に苦慮しているところです。一方、『伊予の細道』にある桃の木には例年になく実がなっており、「このまま無事に色づいて……！」と願っていた矢先に『台風6号』が。風雨に負けることなく色づいた精鋭達が今年の桃ゼリーになる予定です。鮎の塩焼きや梅ゼリー、桃ゼリーの提供は入院中の患者さんに季節を感じていただける数少ない機会ですので可能な限り続けていきたいと考えています。

（栄養管理室長
酒永 智子）



がんセンター 俳句ポスト

ハイ!一句



作品が選ばれましたら、四国がんセンターニュース（年4回発行）と選者発行の「俳句ライフマガジン『100年俳句計画』」（隔月誌）へ掲載するほか、当院ホームページ等インターネットやテレビ、ラジオなどの各種媒体にてご紹介させていただきます。

選者：三瀬明子（俳句ライフマガジン「100年俳句計画」発行人）



啓蟄の世界に戦溢れけり

（御転婆さん 66歳・男性）

啓蟄は二十四節気の一つで三月六日ころ。冬眠していた蛇や蛙などが暖かさに誘われて穴から出てくるところとされています。生き物たちが目覚めてみれば、地上には戦があふれている。生き物のざわざわと戦争のざわざわ。今の社会情勢を静かにシニカルに切り取った印象的な俳句です。

入選 行く春や腰落とし摘む花飾り

（森長寿美子さん 66歳・女性）

行く、落とす、摘む、と動詞が三つ入っていますが、最後に「花飾り」へと焦点が絞られる語順もあいまって、すんなりと情景が読み取れます。

入選 公園の声高らかや鯉のぼり

（菊川祐輔さん 41歳・男性）

「こ」の韻の踏み方が心地よい一句。公園にひびく元気な声と、高らかに泳ぐこいのぼりが見えてきます。

入選 稜線の季節感じる春がすみ

（かっぴいさん 40歳・男性）

かすんだ稜線はまさに春。かっぴいさんの句によって、季節ごとの稜線をも想像させられます。

入選 桜咲きて光射し込め癒やしの病棟

（星川浩司さん 59歳・男性）

桜が咲いて病棟にハッピーな光が射し込み癒されますように。本意を変えず17音にアレンジしてみました。いかがでしょう。「桜咲くひかり癒しの病棟へ」

伊予の細道四句

投句締め切りが春だったからでしょう、花の咲きほこる当センターの癒しの遊歩道の句が多く集まりました。

花乞うて伊予の細道くるくると

（一十石さん 69歳・男性）

のどけしや病む人憩う遊歩道

（ききょうさん 69歳・女性）

伊予の細道刈くさの上に銀の細道

（ねこさん）

三度目の伊豫の細道桜舞う

（山田倫子さん）

季語は語る二句

身内への慈しみがそれぞれの季語に込められています。

春雨降る妻の身思う我が心

（加糖過多さん）

旅立ちし弟見送る白こぶし

（西山定典さん 男性）

多くの人が実感する真理

歳をとり増々似てきた姉の顔

（愛媛のみちこさん 59歳・女性）



皆さんの「一句」募集中

患者さんのご要望で生まれた四国がんセンターの俳句ポスト、「ハイ！一句ポスト」。大変ご好評をいただいております。設置場所は、各階エレベーター前、図書コーナー、総合案内、患者支援センター「向日葵」で、作品は随時募集中です。患者さん、ご家族、面会の方、職員、どなたでも気軽にご投稿ください。皆さんの「自慢の一句」「楽しい一句」をお待ちしております。



睡蓮 (松山市・道後公園)
撮影：高市 瑞穂

外来診療一覧表

●新患受付時間 7:30~12:00

●診療時間 8:30~17:15

休診日：土・日・祝日及び年末年始

担当医は変更となる場合があります
のでご了承ください

環境

“いで湯と城と文学の街”ここ愛媛の松山はノスタルジックあふれる城下町。

当院はこの城下町の南東に位置し、東に霊峰石鎚、北に道後温泉、西に伊予灘を望み、自然に恵まれた最高の療養環境に立地しています。

交通機関も伊予鉄巡回バスの運行など便を増やすことで来院も便利になりました。

今後とも患者さんの視点に立った細かな配慮を心がけ、西日本を代表する「がん専門病院」として精進いたします。



院内にて
FREE Wi-Fi
がご利用
できます。

四国がんセンター【公式】

Facebook

Instagram



四国がんセンター

〒791-0280

愛媛県松山市南梅本町甲160

TEL：089-999-1111

FAX：089-999-1100

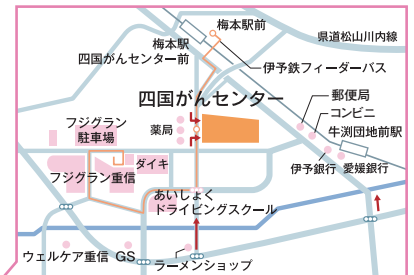
<https://shikoku-cc.hosp.go.jp>

当院は予約制を行っており、予約患者さんを優先しております

診療科			月	火	水	木	金	
消化器	内科	食道・胃・大腸	梶原(化)	仁科(化)	仁科(化)	梶原(化)	小森(化)	
			西出(内)	—	久野(内)	日野(化)	長谷部(内)	
			—	—	○日野	—	—	
	外科	肝・胆・膵	大鶴	浅木	奥嶋	△大鶴	浅木	
		食道・胃	—	羽藤	—	柿下	—	
			—	—	—	池谷	—	
呼吸器	内科	大腸	津高	東原	—	小畠	松田	
		肝・胆・膵	—	竹井	—	御厨	大田	
			○加藤(有)	二宮	梅村	加藤(有)	梅村	
	外科	内	○榎崎	○加藤(有)	○二宮	○二宮	能津	
		内	○榎崎	○加藤(有)	梅村	○二宮	能津	
		外	土生	上野	担当医(FAX)	重松	重松	
予禁煙外来		—	—	—	○末久	—		
緩和ケア内科			末久	成本	成本	三浦(耕)	三浦(耕)	
泌尿器科			橋根	担当医	橋根	担当医	曾我部	
			橋本(啓)	—	辻岡	—	辻岡	
			曾我部	—	野崎/橋本(啓)	—	野崎	
血液腫瘍内科			守山	吉田	守山	吉田	—	
感染症・腫瘍内科			○濱田	担当医	担当医	○濱田	担当医	
婦人科			竹原/坂井	予婦人科医師	竹原	予婦人科医師	藤本/孤下	
			横山	—	藤本	—	坂井	
			日比野	—	孤下	—	横山/日比野	
乳腺外科			山下(美)	高畠	高橋(三)	○宇野	高畠	
			河内	高橋(三)	河内	山下(美)	宇野	
			—	—	△近藤(碧)	—	—	
形成外科			△山下(昌)	○山下(昌)	—	—	○山下(昌)	
頭頸科・甲状腺腫瘍科 (耳鼻咽喉科)			門田	担当医	門田	担当医	東野	
			東野	—	橋本(香)	—	橋本(香)	
			佐藤	—	佐藤/増井	—	増井/担当医	
予骨軟部腫瘍・整形外科			杉原	肉腫(サルコーマ)	杉原	—	杉原	
			片山	片山	片山	—	片山	
			古川	古川	古川	古川	古川	
歯科口腔外科			加藤(翼)	加藤(翼)	加藤(翼)	加藤(翼)	加藤(翼)	
			清水	桐山	清水	桐山	細川	
			濱本	濱本	長崎	神崎	神崎	
予麻酔/疼痛外来			原田	正岡	—	武智	—	
併存疾患センター 【※1は院内紹介のみ】			予リンパ浮腫外来	—	○山下(昌)	—	○山下(昌)	
			予リンパ浮腫ケア外来	—	リンパ浮腫ケア(自費)	—	—	リンパ浮腫ケア(自費)
			皮膚科	藤山	藤山	垣生	藤山	藤山
			精神科	—	越智(2,4,5週)	—	—	—
			眼科	—	○大橋※1	—	—	○大橋※1
			循環器内科	○倉田	○倉田/△東※1	○倉田	○倉田	△吉井・船田※1
			内分泌内科	○宮崎※1	—	○松原※1	—	—
			糖尿病内科	—	○川村/高門※1	○高門※1	—	○高門/池田※1
			脳神経外科	—	—	—	○國枝・井上※1	—
予ストーマ外来			橋根	東原	○橋根	○小畠	—	
予原発不明がん診療科			—	△青儀(2週)	—	△杉原(4週)	—	
予セカンドオピニオン			担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
予がんゲノム医療外来			担当医	—	担当医	—	—	
予遺伝性がん診療科 【※2はサーベイランス外来】			△山本	○山本※2	○山本	○山本※2	山本	
			—	△山本	—	○大住	—	
予病理外来			—	—	—	△寺本	—	
予がん看護外来			担当看護師	担当看護師	担当看護師	担当看護師	担当看護師	
がんドック			酒井	徳永	酒井	徳永	酒井	

予…予約のみ ○…午前のみ △…午後のみ ★…奇数週 ☆…偶数週 (化)…化学療法担当 (内)…内視鏡治療担当
※診療担当は変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

TRAFFIC ACCESS 交通のご案内



車でお越しの場合

- 松山空港から車で 約45分
- JR松山駅から車で 約30分
- 松山市駅から車で 約25分
- 松山自動車道
- 松山インターから車で 約20分
- 川内インターから車で 約20分
- 東温スマートインターから車で 10分

電車・バスでお越しの場合

